

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.204]]]]]]](2005.1.4)

あけましておめでとうございます

本年もよろしく願い申し上げます。

早速ですが 12 月 27 日に開催された調査会理事会で承認された平成 16 年の調査会通常会計及び家族支援資金の決算を報告します。5.22 で総理が約束した援助の額からすれば雀の涙にもなりません、こればかりは「お金が底をつきましたのでやめます」とは言えません。私共ももちろん最大限の努力をしますので、各位におかれましてはご協力を賜りませうようお願い申し上げます。

< 特定失踪者問題調査会一般会計 >

前年度繰越 4340890

収入の部

寄付金 15491436 家族会、救う会調査委託金他

雑収入 343189 ポスター協力費他

収入合計 20175515

支出の部

総務費 14319450 人件費、事務所備品他

調査費 2859045 調査出張旅費、器材購入他

会議費 107089 会議会場費他

電気 156548

電話 226116

翌年度繰越 2507267

合計 20175515

現金残 365056 平成 16 年 12 月 26 日現在

預金残 279143 同上

郵便振替残 1863068 同上

合計 2507267

< 特定失踪者家族支援基金 >

収入の部

寄付金 570000

雑収入 0

合計 570000

支出の部

交通費 0

宿泊費 13000

会議費 0

雜費	0
合計	13000
翌年度繰越	557000
現金	70000
郵便振替	487000
合計	557000

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.205]]]]]]](2005.1.7)

前上昌輝さんのデータ訂正について

昭和 52 年に旭川で失踪した京都市出身の前上昌輝さんについて、これまで報じられてきた失踪日付が間違っていたことが分かりましたのでお知らせします。

もともと、失踪日は 9 月 22 日となっており、これはご家族の作成された資料をもとにしていますが、正しくは 10 月 22 日でした。この種の訂正はときどきあり、通常は特別お知らせせずに処理しているのですが、前上さんの場合は拉致の頻発している時期であり、日付が特別な意味を持つ可能性もあるのでお知らせしておきます。

ちなみに松本京子さんの失踪はこの前日、10 月 21 日です。

新ポスターとパンフレットについて

失踪者ポスターは現在第 4 版ですが、作成後追加公開された人が相当数に上り、日本国内で安否の確認された人もいるため、現在新しいものを作成中です。第 5 版はさらに人数が増えますので、前回同様失踪時期などの簡単なデータしか入れられないため、別途パンフレットを作成する予定です。詳細はおってご連絡します。1 月末頃できあがる予定です。

参考情報

「海外事情」(拓殖大学海外事情研究所発行)の昨年 12 月号に韓国における言論人拉致についての論文「北朝鮮に拉致、殺害された韓国言論人」が掲載されています。筆者は鄭晋錫・韓国外大名誉教授、翻訳は下川正晴毎日新聞編集委員です。この問題についての論文はおそらく初めてであり、書店にはほとんど並ばない雑誌のため、ご参考までお知らせしておきます。なお、拉致問題ではありませんが、同じ号には竹島問題の第一人者である下條正男拓大教授の論文「高句麗史論争と間島問題」も掲載されています。ご購入、お問い合わせは拓殖大学研究支援課(直通 03-3947-7597)まで。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.206]]]]]]](2005.1.16)

報道関係各位

本日、TBS系「報道特集」で放送される内容に関し、以下の通り記者会見を行います。
直前で申し訳ありませんが対応方よろしくお願ひ申し上げます。

- 1、日時 1月16日(日曜・本日)19:00～
- 2、場所 友愛会館1階A会議室(港区芝)
- 3、内容 特定失踪者に関する新たな情報について
- 4、参加者 関係ご家族並びに調査会役員

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.207]]]]]](2005.1.16)

本日の記者会見の内容と明日の対応について

本日の記者会見で発表した文書は下の通りです。明日月曜は 11 時に内閣府拉致被害者・家族支援室、16:30 拉致議連平沼会長に要請を行う予定です。
さらに追加の日程が入る可能性があります。

平成 17 年 1 月 16 日

斉藤裕さん、松本京子さんの写真についての発表にあたって

特定失踪者問題調査会
代表 荒木和博

本日発表した 2 人の写真は 11 月に T B S の吉田豊ディレクターが調査会に持ち込んだものである。当初私たちはこの 2 人が市川修一さんと増元るみ子さんではないかと推定したが、橋本正次東京歯科大学助教授に打診したところ市川さんと増元さんではなく、斉藤裕さんと松本京子さんではないかとの見解であった。

その後、両人である可能性が高いとの判断が橋本助教授によってなされたため、調査会からご家族に報告し、ご家族は橋本助教授に鑑定依頼書を提出した。昨日ご家族は東京歯大を訪れ橋本助教授から中間報告を受けた。正式の鑑定書は 2 週間程度で作成される予定であるが、橋本助教授によれば男性の写真は斉藤裕さんと「同一人物とみて差し支えない」、女性の写真は松本京子さんの「可能性が高い」とのことであった。

2 枚の写真の出所は藤田進さん、加瀬テル子さんと同じ脱北者である。北朝鮮からの入手経路は不明だが、前の 2 枚とほぼ同じルートで複数の脱北者、北朝鮮関係者の手を経て流出したものであると思われる。他の複数の「日本人拉致被害者」とされる写真とともに T B S が入手した。元の写真はそれぞれ 1 人ずつに切り取られているが、バックが類似した 2 人の写真では斉藤さんと松本さんは隣り合っている。しかし、2 人がどういう関係なのかは不明である。

今回この写真をお 2 人のご家族及び入手した T B S の了解のもと発表するにあたり、関係各方面に次のように訴えたい。

記

- 1、2 人はどちらも調査会の 1000 番台リスト（拉致の可能性が高い失踪）にあり、特に松本さんは 9.17 以前から拉致の疑いが言われてきた。平成 12（2000）年 12 月 1 日に民主党金子善次郎議員（当時）は松本さんの失踪に関し質問趣意書を提出している。しかし、このときは「所用の捜査を実施

したが、北朝鮮に拉致されたと疑わせる状況等はなかったものと承知している」との答弁書が返ってきている。曾我さんの例でも同様だが、政府機関が拉致と認識していなかった事件が拉致であったということである。関係機関は従来の観念にとらわれず、再度拉致問題全体の洗い直しをしていただきたい。また、2人については脱北者権革・金国石両氏の目撃証言もある。これらもあらためて見直しをお願いしたい。

特に警察は、その性質上、拉致と認識した事件が拉致でなかった場合の責任に神経質にならざるを得ないことは理解できるが、拉致を見つけることができなかった場合の責任も認識していただきたい。逆に報道機関や一般の国民の立場からは、多少の勇み足があっても政府機関が前向きに対応をしている場合は正当な評価をすべきだと考える。

2、藤田進さん、加瀬テル子さんの写真もそうだが、この写真も金日成バッジをつけていない。しかも、この写真の場合は屋外である。写真を撮影した場所がどこなのかの情報はない。しかし他の拉致被害者も含め、拉致被害者が海外で工作活動に従事させられている可能性もある。脱北者が最も多数居住する中国のみならず、全く別の地域にいることなども考えられる。私たち自身も「ほとんどの拉致被害者は北朝鮮の招待所に隔離されている」という、これまでの拉致に関する固定観念を取り払う必要があると思う。政府にはその前提で、さまざまな状況のもとで被害者を保護できる態勢づくりを求めたい。

3、報道関係者及び国民の皆様は、以下の点について、特段のご理解をお願いしたい。一般論から言えば拉致被害者は北朝鮮国内にいるにせよ、国外にいるにせよ、本人の意思に反し、いわゆる「対日有害活動」に従事させられている場合が少なくないと思われる。

拉致されてよど号犯岡本武の妻にさせられた福留貴美子さんの場合、一度は日本国内に戻ってきており、なおかつ高知の実家に帰ろうとして北朝鮮に連れ戻されている。これらのことから考えて、海外に出た場合でも家族を人質として北朝鮮に残されたり、監視されたりで、逃亡することは極めて難しいと考えられる。失敗した場合にいかなることになるかを想像すれば連絡をとることすら企図できなくても全く不自然ではない。絶対に誤解していただきたくないのは、拉致被害者が何をしようとして、非難されるべきは拉致した北朝鮮であり、彼らを長年にわたり救出できないで来た日本国政府である。ひいては、こうした日本政府を容認してきた私たち日本国民全ての責任であるということである。

「日本人拉致被害者」とされる写真はすでに調査会だけでも100人以上のものがマスコミ各社を中心に持ち込まれており、並行して確認作業を行っている。今後特定失踪者（場合によっては政府認定者も）と合致する写真はさらに増えると思われる。今年は金正日政権もかなり不安定になると予想され、今まで想像もしていなかった状況が展開することも、予め想定しておいていただくと幸いである。

以上

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.208]]]]]]](2005.1.19)

記者会見のお知らせ

緊急ですが、本日 19 日夜、以下の記者会見を行います。

時間 20:00 ~

場所 家族会事務所（飯田橋駅東口）

内容 16 日記者会見の内容に関する爾後の状況の報告

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.209]]]]]]](2005.1.19)

16 日記者会見の内容について

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

すでに報道もされていますが、斎藤裕さんと松本京子さんである可能性が高いと判断し、16 日の記者会見で発表した 2 人について、「北朝鮮から流出した写真である」などの事実関係に誤りがあったことが明らかになりました。また、松本京子さんの可能性が高いと発表した女性についてはその後送られた映像などから、橋本正次東京歯大助教授が別人であると判断しました。男性については現在確認中ですが、2 人とも自分は拉致被害者ではないと言っています。

この件に関し、橋本助教授の判断は純粋に法人類学に基づいたものであり、それ以外の情報を十分に収集していなかったことは私たちのやり方に不十分な点があったと言えます。この点は反省しております。TBS の報道は拉致問題に積極的な姿勢がある中で結果的にこのような形になったもので、その方向に誤りがあったとは思えません。今後、このことをきっかけに TBS に限らず各社が拉致問題の報道に消極的にならないよう、切に希望する次第です。

下の発表文書にも書きましたが、「絶対に間違えてはならない」というやり方では拉致被害者の情報を得ることも、いわんや救出することもできません。お二人のご家族に期待を抱かせ、お騒がせしたことについては責任を感じていますが、それらの点についてはさらに注意しながらも、今回の反省の上に立って調査を続けて参りたいと思います。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

(本日の記者会見で発表された文書)

平成 17 年 1 月 19 日

1 月 16 日に発表した 2 枚の写真について

特定失踪者問題調査会代表
荒木和博

去る 1 月 16 日、記者会見において発表した斎藤裕さん、松本京子さんとみられる人物の写真について、TBS に対し 18 日、拉致被害者ではなく、一般の脱北者ではないかとの情報提供があり、現地で TBS が事実関係について調査した。まだ、不確定な要素があるが、現時点で分かっているのは以下の通りである。

記

- 1、写真の男女は脱北者であり、現在韓国に在住していることが明らかになった。本人たちは自らがもともと北朝鮮国民であり、日本人拉致被害者ではないと言っている。これについての事実関係は現在調査中であるが、橋本正次東京歯大助教授が当初の写真で分からなかった部分を比較されたことによって、松本京子さんである可能性が高いとされた女性は別人と判断された。男性については酷似しているが、TBSがさらに詳しい確認を行っている。
- 2、TBSが写真を提供した脱北者に再度写真について質したところ、昨年10月頃から報道機関に提供した写真の中に拉致被害者でないものを混ぜたことを認めた。
- 3、私たちも写真の中に拉致被害者でない人物のものがあることは想像していたが、あらためて調査活動の困難さを再認識した。しかし、情報量の少ない中で拉致被害者を探すのはもともと困難がともなう作業である。写真を提供した脱北者も既に提出した藤田進さん、加瀬テル子さんの写真については間違いなく日本人拉致被害者のものであるとしており、写真の状況の違い等から私たちはこの2人についてはやはり間違いのないものと確信している。もちろん、この写真と一致するか否かにかかわらず、斉藤裕さんと松本京子さんが拉致されている可能性は高いと考えている。
- 4、私たちの判断に勇み足があったことで、ご家族等関係各方面にご迷惑をおかけしたことについては率直にお詫びしたい。男性についてはさらに確認の必要があるが、いずれにせよ今後はより確実な調査活動を行うべく努力する所存である。ただ、少ない情報から拉致被害者を探していくためには石橋を叩いて渡る方法では不可能である。現在写真の入手をはじめ様々な形で報道関係者等とも連携をとっているが、この活動にブレーキがかからないよう切に希望する。

以上

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.210]]]]]]](2005.1.20)

16日発表した写真について

本日調査会では以下の文書を発表しました。

この間多くの方から激励のメッセージをいただきました。心より御礼申し上げます。今後、この反省を糧として一層積極的に情報の収集をやってまいります。間違ってもこのことで調査会の活動が後退したと言われないようにするつもりです。あらためて皆様のご協力をよろしくお願い致します。

平成 17 年 1 月 20 日

斉藤裕さんと似た男性について

特定失踪者問題調査会
代表 荒木和博

16日に発表した2人の写真について、すでに発表した通り、その写真が北朝鮮から持ち込まれたものではなく、写真提供者が持っていた脱北者の写真を拉致被害者だと偽ってTBSに提供したことが分かりました。2人を撮影したVTRの静止画像で、松本京子さんと思われた女性については別人であることが昨日橋本助教授の鑑定からも確認されています。

男性についてはさらに調査を行いました。昨日深夜、ソウルの関係者が男性本人に接触し、その結果次のような証言を得ました(実際は時間場所を特定して詳しく聞いているが、男性および北朝鮮の家族の保護のため本人を特定できる情報はカットしました)

J氏(男性)

1950年代後半、黄海南道生まれ。

1970年代前半から1990年代後半まで人民軍勤務。除隊後脱北し、5年程中国に住んで2003年に韓国に入国した。写真は八ナ院の「歴史探訪」(遠足のようなもの)で大田の近郊に行ったときのもの。

同じ写真に写っている別の女性をふくむ3人は脱北者支援施設である八ナ院の同期。

橋本助教授は男性について、本日さらに静止画像から比較検討され、「斉藤裕さんの写真と側方から見た男性の耳や顎の形態に相違が見られる。正面から見たときには分らなかった部分だが、その部分に説明できない相違が認められるため、同一人物ではない」と判断されました。

以上のことから、今回発表した2人の写真のうち、男性の写真についても別人であった

と判断するに至りました。あらためて情報の発表などご家族を含め関係各方面にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

私たちは斉藤さんと松本さんが拉致されている可能性が高いことには変化がないと認識しております。今回のことを教訓としてお2人をはじめとして特定失踪者に関する情報の収集、分析の方法を改善し、今後更に積極的な情報収集に努める所存です。なお、写真の2人につきましては北朝鮮に家族のいる脱北者であることから、各方面におかれましては情報の扱い等に格段のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.211]]]]]](2005.1.21)

報道関係の皆様へ

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

もっと早くにお願いしておかなければならなかったのですが、斉藤裕さんと松本京子さんでなかったことのお2人の脱北者について、報道の際はご本人の顔など個人を特定できるデータを出さないようお願い致します。これはご本人たちと、北朝鮮に残っている親族の安全のためですので、ぜひご協力下さい。

なお、19日の記者会見について、一部に「TBSが記者会見」あるいは「調査会とTBSが合同で記者会見」とされていましたが、会見は調査会の単独主催であり、TBSは事実関係の説明のためにこちらから参加を要請したものです。

こうやっているうちにも、今日も全く別のルートから、ゼロ番台の男性失踪者を北朝鮮で見たという情報が入ってきました。この人については前にも目撃証言があったのですが、複数情報であっても元の情報源が同一である可能性もあり、まだ本人であると特定することはできません。今後さらに多量の情報が入ってくることが予想されます。当然その中には今回のようなケースや、あるいはもっと悪質な北朝鮮側からの逆情報も流されると思います。しかし「糞に懲りて膾を吹く」の愚は避けたいものです。調査会としても今後一層細心かつ大胆にやっていく所存です。報道関係各位にもさらに積極的な報道をよろしくお願い申し上げます。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.212]]]]]]](2005.1.25)

非公開の失踪者 1 名国内で所在確認

本日、非公開の失踪者（男性・関東地方で 1990 年代中ごろ失踪）1 名が所在を確認されました。これで国内で所在の確認されたのは公開 5 人（うち死亡 1 人）、非公開 7 人の 12 人となりました。

新ポスターまもなく完成

新しいポスターが来週前半に完成します。今回は「拉致被害者・特定失踪者ポスター」とし、政府認定拉致被害者（未帰還者のみ）や寺越さんら政府未認定の被害者 6 人を含めたものとししました。1 枚 100 円（送料調査会負担）です。ご活用下さい。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.213]]]]]]](2005.1.28)

布施範行さん拉致に関する刑事告発

1000 番台リスト 33 名のうち、一番新しい発表で第 2 次一斉告発に間に合わなかった布施範行さん（昭和 53 年失踪）について、ご家族、法律家の会と協議の上、以下の通り告発を行うこととなりました。

1 月 31 日（月）

13:00 山形県警警備 1 課に告発状提出

14:00 山形県庁記者室で記者会見

（ご家族、担当の富坂弁護士、調査会真鍋専務理事、斎藤純一理事）

「拉致被害者・特定失踪者ポスター」完成

調査会のポスターとしては 5 枚目になる「拉致被害者・特定失踪者ポスター」ができました。今回は政府認定拉致被害者（未帰還者のみ）や寺越さんら政府未認定の被害者 6 人を含めたものとしてあります。1 枚 100 円（送料調査会負担）です。ご活用下さい。

『拉致 異常な国家の本質』出版

調査会代表荒木の新著『拉致 異常な国家の本質』（勉誠出版・税込定価 1680 円）が出版されました。書店には明日以降順次配本されるとのことですが、日本と北朝鮮、2 つの国の異常さについて書いたものです。ご一読下さい。